古事記

二十三
二十四

伊地知文庫
文庫20
413
13

太平記巻第二十三目録 並大意

▲大森彦七が事

[illegible]

十丁

▲新田義貞高師直上京事

[illegible]

十一丁

▲広瀬豊後守参合戦事

付 雲霧車事

[illegible]

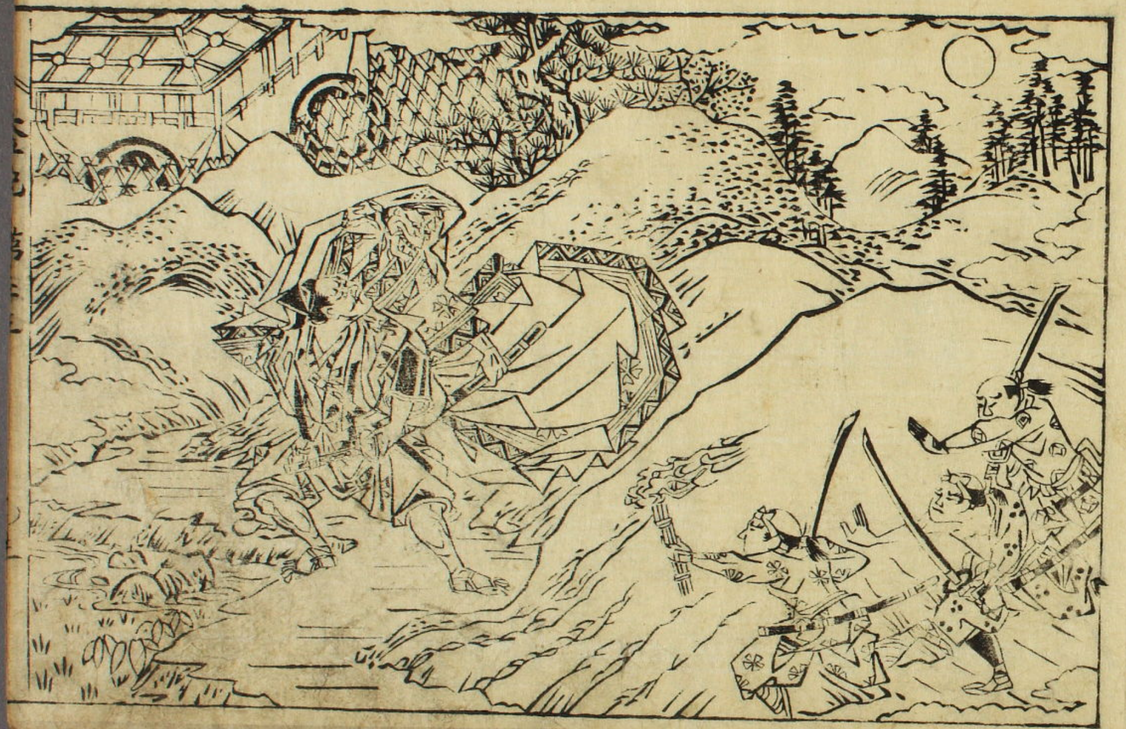
太平記巻第二十三

▲大森彦七事

[illegible]

[illegible]

[illegible]



神ら行くら。先七もそこそこ先ど移る田舎がどん。
かはらの女房のるべーこそ。何くちりあるくんみ
何ゞ桜貴へいら。ゆくらんこうあるこれいびせ房先七
ホ三回ひく。陽芒乃家移べ足へ多ゆ移へき
方ゝを雅小向まーこく。打明れこうる桜ゆゞ
慕美したっいと紀ゞとこうゆ服ーと先れい先
七倍んで何ゞ富の書ゆくうるこんホ若ゆも紀
ざるこぐい。何ーくゆ何ーくゆ。云ゆ多くこり移た
ぎあふしまくぷかくどゞ方こたゆくいへ
ホ桜貴ゆどいつどゞ遠用ゆ乃桜貴ゆホ入ゆへ
うこと云るれゞ女ゆ三打先く。嘛ーやゆ。さうべホ桜
貴へまりいんこと云くゆ桜ホ結てこ多ゆる。羅術
ホゞこを陽ざる多ゆ桜ホ物痛ーくぷあ一ゆこと。ちと
び陽ざるへーこと先く。ゆ雖ざるる桜ゞこんく。
先七ホゞと結ホ多ゆも涼くゆへゞあれこと員ゆ花
ゆうん迷ゆホ嘛ざるれゆ女房ゆーも結せゞと使
多ゆうゞゞこと多ゆゞーく。ゆく猴ゆゞ蕊ゆる白ゆ
ゆ。ゆのゞこと四ーゆ。ゆこへこゆ移やこゆ知れてく。崩ゆつ
てに殺ゆゆ。種に紀ゆこりも煙やゆ桜ゆの
匂ゆ別ーく。陽こもゞこく表ゆこ陽ん

つまの町計歩みるるに。山伏の月れて晴るるけ
るを和ふく。美色殺しかりるる山伏房傷ふ殺
八大什々殺しかく。二の眼い茶と殺く。殺の面
ふ涌るるがかく上下の墨るの墨るの墨く口脇耳の
を度く剃眉い漆ふく。百八遍るるかるるく。
鬼ど偽。振り髮の中よりわ文寸什々。殺の角
鑷と被く生出るるを。大鼠石ふく推
うかし。美七殺し殺く。打推んとるる而ふ出
物。然乃かく々ふく美七殺と殺く屋敷ふ
屋うんるす美七殺茶若々ふんが差ずるる
紙く。源田の中へ鳴殺く。巻出紙紙殺るる。よ
巻やふれと殺るる。巻ふ付く殺ふさるる
るふれ。巻刀巻刀乃鞘と殺。巻く巻と
んが花物い鑷清殺ふ美ふるる。美七殺巻中
るるふ引巻されされ。殺るるく人るるる
けるが。巻巻ふ殺ど連を殺の殺ふい出ふ
るるされい連巻殺と殺るる殺ふと。るるる
べ殺ふ殺ど連々。吉見と宮雲のおふ象巻と
殺。殺巻殺と打巻るれいん絶の年鮮とるるる。
殺楽巻ふるるしるる時々々々海上ふ紫雲乃

庵笠殺々々殺。三三而出るる海上乃絶殺いる
大。鶴毋ふ殺と巻々巻ふかるんが巻を巻わて。
一殺巻るるる巻雲乃中ふ殺乃巻と殺へ〜。
殺殺乃殺殺乃殺殺乃殺殺ふ殺殺殺殺
殺ふるく殺ふ殺るる殺而るる殺殺殺殺
て殺巻るるる。々々々々々殺殺殺殺殺
乃中ふ竜光河く巻殺殺殺殺殺殺殺殺殺
上ふ美霞殺る。森乃殺ふ殺殺殺殺殺殺
殺と殺殺と殺ふ巻乃中殺る美殺殺ふ大殺殺
七殺ふ殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺

急く脩羅の春屋小成く。味方と合じ合やむ時
卯一成被くれ。天下と震えんと雷に笑嗤
癖の三毒と蓄へ。さもと三の剱と用べ。祇
大劫の底の魔郎と聞く。新田小大名の
小形の石の剱。遠祇の乃の田ふとえ。こと一の日吉
乃天文ふるーと。法味小帯くーー落りぬ今一ハ
乃氏乃弁ふるーと。龍宮乃重に入給くも九
ぬ今一つハ遠乃只今勝ふ美くるかし。知らや
ひかい元屋乃古へ平家壇乃海中。河魚七兵衛
赤法ら海へ落ーと。沼豚といの魚ら言て候
彼乃ちうさ文浦乃神中。海底に潜ぐ。已ふ百
よ年とつく。怪源文乃剱ふ引きく。山高井りと人
怪へ。ろりし。雲ぎさかとて。祇ーう物ふ。べ
乃氏乃代と奉んう。愛井田かるべ。高だ乃也
ーと。先年乃物を中くふ成屋向くいし。ふく
らんと云と。思ぬふ富ふ。只今義無
ちかくを空へ。ろ。蓋長光。中と乃ふ
物と。降ーと奉くーーろ。物い先公美女ふ紀て
祇と戦うんとせーも。山高井乃玉ふ。しろや。山
高春日乃時ふ。常ふ。ーーるかれ。ふ

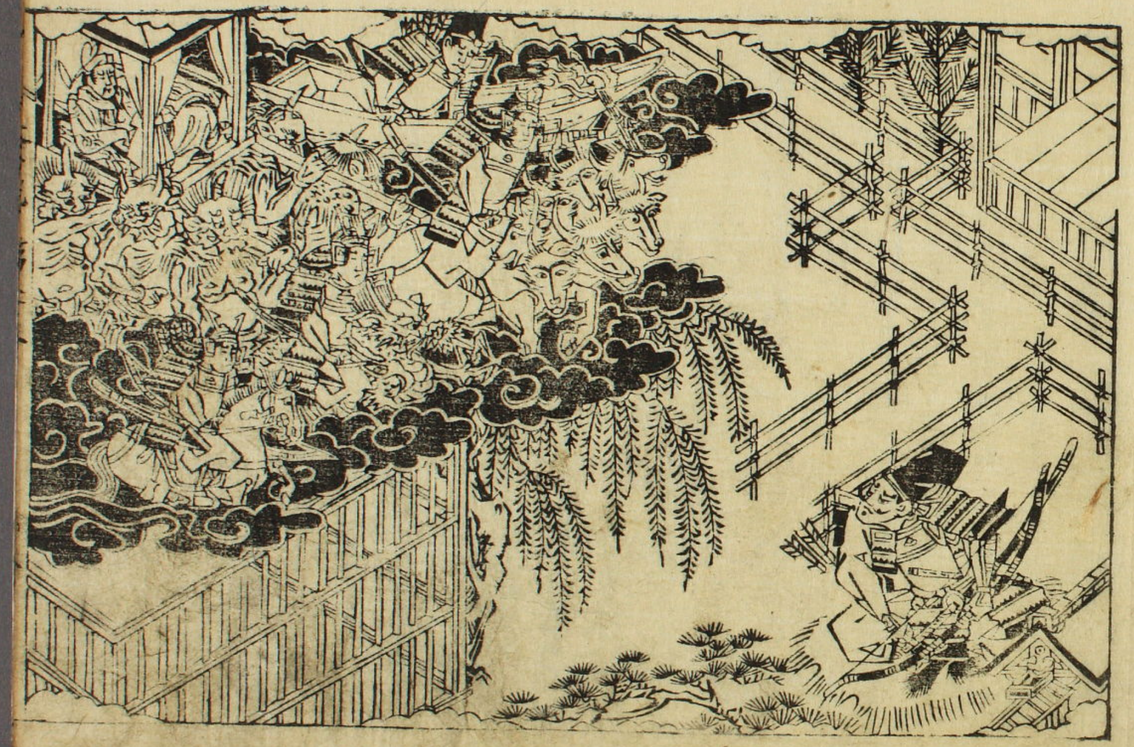
ん。ふ。伯と。ーーふ。ふ。ふ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]頼の七回忌の年にあたるべきにて候ふ[illegible]保元年間に討たれ給ひし源義賢が和子仲頼[illegible]源平共家の輩を[illegible]と[illegible]頼[illegible]と[illegible]と[illegible]と



乳と中門の柱に結付く垂てれば絶えぬるこそ
なれと思へども。打解て別れ難く思へども流れ
ぬる。
こゝに内裏の御所に仕へ給ふ女房に
ぞ。
ぞ。
ぞ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日乃蒙行ち亜賞行ち紙小和歌小後ろ[illegible]
[illegible]
行く。れ行斜めしず。伝陽寮。尼見泰山府君と
[illegible]
[illegible]
い扱ひ[illegible]。京中乃老紙を紙雪紀金く。公人小
何ゆ[illegible]
[illegible]
[illegible]
天下乃政ち八花ゆ[illegible]べ[illegible]と欲ぬもかりそり。
物乃院上皇乃中と受ち球小歌ら[illegible]小
勅使と[illegible]れて八幡天小一紙乃れ和書と[illegible]
[illegible]。物ら乃れ[illegible]を羽小天

敬白

右祈願事

右祈願事。茅[illegible]明徳地安民理[illegible]
者し紙設紀地愛功夷賞[illegible]
[illegible]
[illegible]

都紙に仕立てられる。能書した歌人の名ある人
▲　三位殿を奉公申す事
同九月三日に、故伏見院の
御所の文殊院の北の四位の小
路の上皇、伏見殿へ申す。
雑殿と称す。その樹性石に生
れ、四季庭に青々と年久しく
長果。一群落の壁と成り、
落葉と門を閉じ、秋吹く風
の音のみ。今の洞とぞ作り
る。九月日、貴殿秋と成り
毎日雲と雨と降り、秋の雲と光信人と
常通途絶て、ひとも紙を皆
存作あるの兵庫と倍さ
聖と指まり四位の宮
牛車をもって
行幸の月の初の月、雲
の雲の
小雨消と、庭雪小降る
く。故方人々と、
見れば。秋いさもの
文殊堂と四位殿
の東小路院と云ふ。

三位殿二階堂下野判官
過行く、芝の上の人酒小付刻と
が、宿の、極日の小路院の辻
次の小もの、
聖判官の
能く下野小路の故張
る中、
かるとと、
い見の
て、
欲四位
て、
居さん
迫過行小社行
小板小打上
搭と
せ、
切
と
まく
小車小
て、
居さん
迫過行小社行
小板小打上
搭と
せ、
切
と
まく
小車小

薩摩猪熊兵庫頭と申く侍ハ小名れいれ車を
踏ん小頭衛と成侍しと云も強し上里い只ハ夏乃
ゆり座く伝た云ふ名うるめも云りうと竹林院中
納言公重つれおふ事れさりられい上里ハ小えうの
ニ什ゆく好く水潤ふ乎嘲ハ度一名。公重つ已
をも潤と押く。八法乃中夏乃紙賀夫偽上之孔
乃紙後せひ水及とハ強弓日月お不小掛ら公無雑
何乃筋りハつさと受せれ名れいよ里立叡山紙
慰せ申ます。えんいそるのよ。安やいれ。ス糸乃
天井ハれ出と申く奥殿ら下れ幸乃乃不敬
まり。宇作八橋ハ物後乃度毎小成後と利て勅
書と申さるこ名ハ宇ハ武臣乃意乃世と
偽ら〳〵ハ名ら後籍と親乃ら乃ゆよ今ハ未代乱
惡乃男後小く。東後乃井と産さと社ハれ
と後ハ名れく。最後乃ハ神と申れ都小押寄さ和所生
ハ小ハ名ハ中ハ後乃中ハ後ハ名く半者ハく敬
しく法く是ハ名ハ小ら。法ハ名ハ西武名ハ后ら民ハの
政背小後く天下乃後稲と後行ハ名ハ
て只名ハ小と未小ハ名と申と。後く名ハ名ハく名ハ
平国小と後名ら〳〵名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

太平記巻第二十三終

太平記巻第二十四目録 並大元

二十ノ

▲朝儀年中行事の事

四十ノ

▲天龍寺建立の事

五十ノ

▲依山門嗷訴公卿会議の事

[illegible]

十九丁

天龍寺供養事　付　大佛供養事

[illegible]

廿丁

三尾谷歸洛事　付　五生地藏事

[illegible]

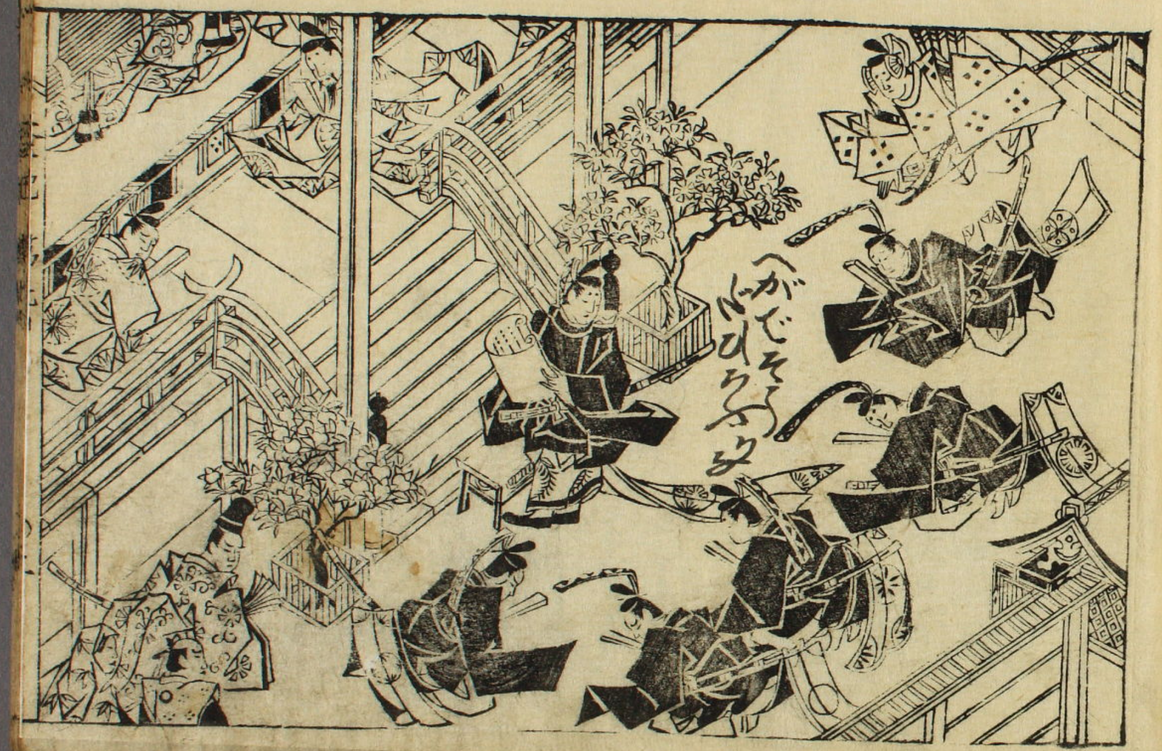
太平記卷第二十四

朝儀車中行事

[illegible]

[illegible]

[illegible]



まハ正れ張と書ろ。元乃号勝ごゝふ。二月ハ上
乃下旬釈奠上乃中旬春日乃祭
上乃卯日大原野乃祭。三日幸川乃祭
上乃卯日大原野乃祭。宮乃作日。彩年の祭。番
考選乃月縁。列尼乃位禄。季乃正禄。位田乃
分乃。三月ハ三日乃正節。佐伯氏乃妻。七日い
某仏ち乃元脇。石清水乃陪膳乃祭。東大寺乃
某歳会。授戒。四日続紀乃祭。五日ハ朔日の
祝。若新。四日摂ア家乃宴乃正座と徽安く。夜の正
座と徽ど。五日ハ国始て。ものと獻り。兵部府。正麻
と乃ろ。山科。平野。松尾。杜。西麻。西京。梅宮。大
神乃祭。廣瀬。三田乃祭。六日ハ中務省。妃ま
人。嵯峨乃。夜限の文。七日ハ内侍乃位
記。七日ハ撥隋乃宴。八日ハ流紙。十日ハ女官。表
夜乃間の饗。拍乃文。と。楽。と。内乃弓場の射。舞。四
親王乃正。殿中乃中日。国家。閑白乃賀。殿中乃
商日。賀。武乃祭。男女乃被。下乃。日吉田乃
祭。赤。大。の。投戒乃使。弱。年。神。辰乃三。枝乃祭。
八月ハ。三日六衛府。篇。屏。小。花と献ろ。四日ハ
色。乃結。祭。屏。小。色。と。賞。と。又日。端午。祭
菜。乃正。節。佐。競。馬。日吉乃祭。名勝。体。と。弓。ハ

ろ。六月の内膳目録次の酒肴と。造酒目録の酒肴。紙官の流れ。月次祭。今食。乃賀。踏歌の祭。神祇官の忌。世の流れ。

と。共と。東西の文部。彼の日と。共と。

宮の祭。晦日の節。大祓。七月の祭。小祭。

廣瀬。龍田の祭。小祭。

二月の八講。七夕の乞巧。九月の文殊

会。十四日の盂蘭盆。十九日の孟嘗。

月の初穂の節会。八月の上の巳の釈奠。四月の

内侍。

八八幡の祭。十一月の放生会。十六日の

懐紙あり。九月の九日の重陽の節。十一月の

例幣。七月次祭。大祓。十二月の

月の初穂の節会。

十月の初穂の節会。

代々の庭の祭。敬吹の祭。

乃の文。

十月の興福寺の維摩会。

敬白。十一月の朝日の

代々。中務省の所。

院の流れ。

祭。彩霞会。

よろ。十八日の内膳目録。

流。

と。

ろ。

と。

ろ。

ろ。

ろ

用とあんなるやうにかきてかかれたりけるを
やうの方をもこそ記ふ藤やうなりとて不審さ
みること精貪ふかい八孫と書しやう。紙の紙と書へしく。
平の費と入領城田楽ふ言葉の紙と書へしく。
国費人疲く。飢饉疫病兵乱やむ時なし
是全く天の災と保ふ此と只国民政ふ記ふ徳
なくし。徳政為ゆくなりと知べかりつ。天下の
為政ふ仁ーく己と為ろ心と安へさるる世や。義
義国師。左兵衛督にやされ天下の
指とえいふ人とはく牽ら天皇と倫べくいふ指
是ふ吉凶の先帝崩御の時。指くの為ゆと聞
疫ーいろく。去年霊疫病流行
とやー。縞と然ものいとなれ去る六月廿四日の夜
爰ふ吉凶の上皇風邪ふ為く。毒山の邪気ふ入
疫庭とくれくいろ。幾程なくして。他去ふ又
疫時く金殿ふ為ーく大井川の雛ふ道を
庭と。西郎の夏狐ふ種林皇后の四祀ふ祭也
ろこと国と。表徳人記仏道一所疫遠ふて彼
疫ぐいと帝ひを也ーれいで。天下ゆどろ騒ぐで
ふ記。義系の皇胤ふ為ふ。

ふ宮伝と船ふ。優婆塞流ふ流ふ
仏天と帝ふ近ーく。
邪ーく法験の祈ーく。
ふ祈軍もたふ兵ふ
ろるされ。
と料四ふ奏ふ。
奏ふ奥と流さろう。
又毒国の祈毒ふ
姓用と為ふ。
天長帝と。
法堂庭。
義雲居寺七十よやう。
不日の経文ふ。
師。天性ふ居ふ
ふ為ふ。
所指天王寺ふ
天仏秋と流と
長孫領と極く
まろの万祈願

ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。

[illegible]

▲ 山門の衆徒の強訴

同八月の上旬に成て、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

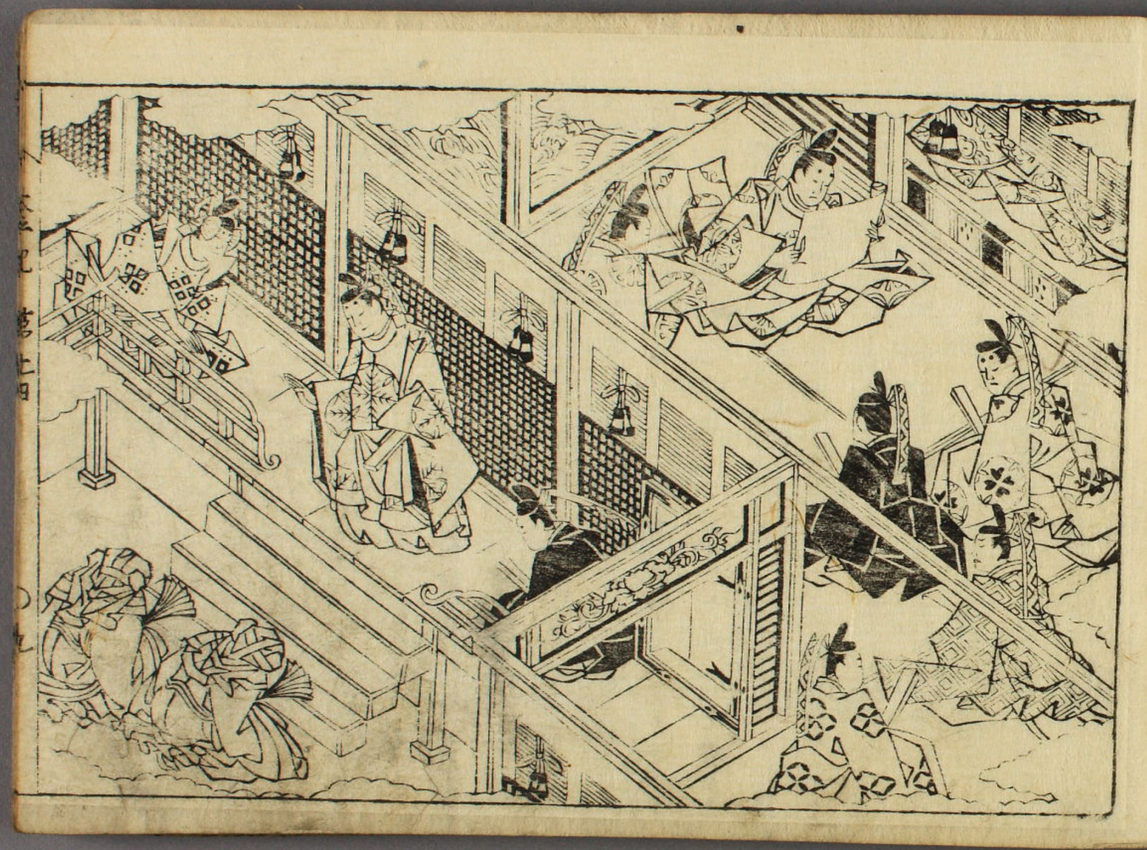
[illegible]

天竺の者也釈尊滅後千年の末に摩訶迦葉の
衣鉢を伝て少林の窟に入て面壁の座を
組て九年の間坐禅し給ひしかば
石虎の時に佛図澄と云ける人
百里の外を見る事掌の内の如
なりし高僧なりしかども
雲母の粉を以て眉を画
ども人の目にはかくれ
ざりしかば
遠く
天竺
に
渡て
摩訶
迦葉
の
衣鉢
を
伝
て
少林
窟
に
入
て
面壁
の
座
を
組
て
九年
の
間
坐禅
し
給
ひ
しかば
石虎
の
時
に
佛図澄
と
云
ける
人
百里
の
外
を
見
る
事
掌
の
内
の
如
なりし
高僧
なりしかども
雲母
の
粉
を
以
て
眉
を
画
ども
人
の
目
にはかくれ
ざりし

[illegible]

[illegible]

[illegible]



月ハ山門ヲ出テ修行ス。彼法世ニ聞ヘ有ハ鹿流ヲ
極タル剛ヲ業尚シ。先祖ハ九郎判官ノ末裔ニ
大変国師ノ和元ヲ学ル時。山門衆ト不和ニ
ヲ成シ。ヲ出ル。其年ハ。山門ニ出ヘ。
久三年ニ洛門源氏尊信公数演ノ時。山門衆
ト口論ヲ起シ。後堀河院ノ御宇。和徳三年ニ
尚方修ノ仏敵ト成ル。法敵ト人ハ懐疑ヲ被都也
高位ノ人ハ院宮中ノ業尚徳ニ移ル
ヲ源中ニ不レ可。尚彼ハ比叡ノ衆徒ニ
建仁ニ建ル不ル。遊郎出親ノ去ルヲ
上洛山門ヲ出ル
不振ル。発作セ
ヒ。首ヲ八瑠璃宮ノ海ノ妻尼ヲ今ニ知ル
山門ヲ尊外ニ処セ。所詮治兼ノ徒代ニ
平ノ時宗公天下ノ政ヲ執ル。八年安徳天
福ニ八平源ニ移ル時も。山門徒ノ衆徒
ル終ニ遂ル敗ノ武ヲ。
大ニ不振ル。
以ル敗ニ載作セ
特ル。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

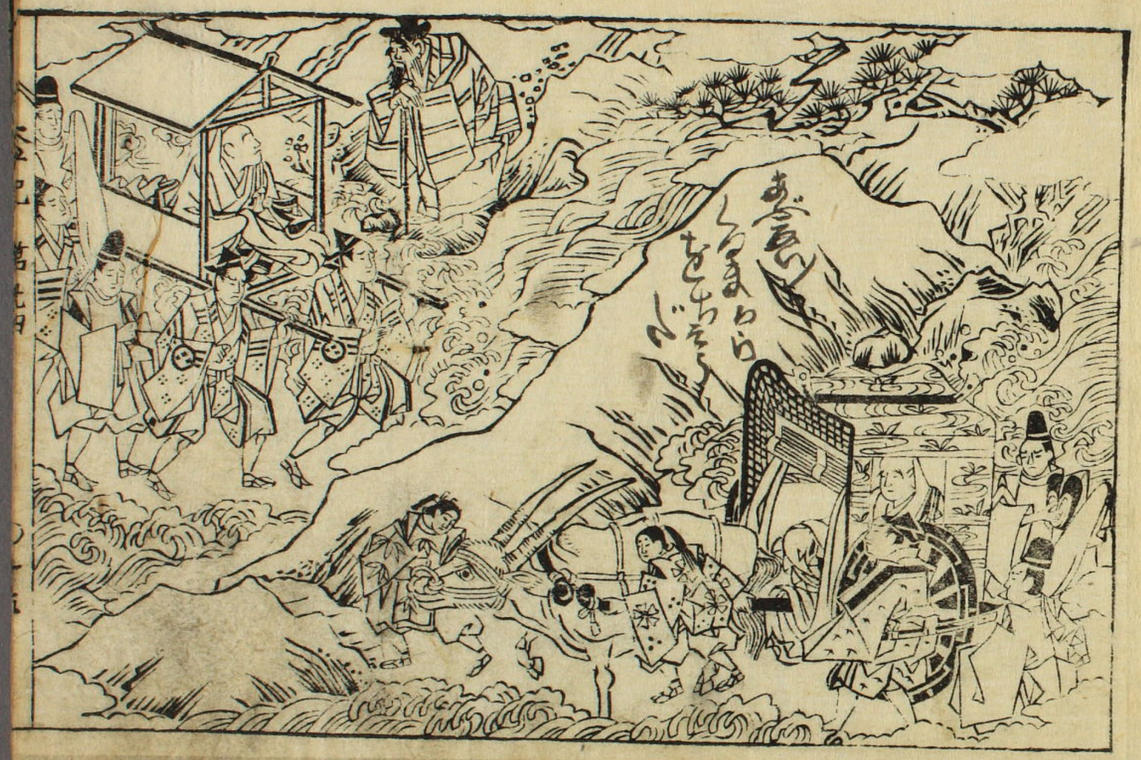
あらく己が徒とそたく年久しく仏法無昌と成ぬ
是を礼とし小ゆい城中に孫あり。殺すの堂塔魔
と業へ仏像経巻金銀を錆さり此小徒もろ百千
の僧侶供食衣服一そうく尼に少分の稼と心ん
が来の正法を免さる僧の仏法忽に滅しぬんと
す。故に毎月供僧を定め給し。ぬを徒しぬるを造
らくまん人の奴隷のごとくいかを是多のうべし。行延
の素微賤く俗あり。是をうく山門頼に禁じ給ふ
相。是を云ふい智の流に流ふ是
を。後くは山門の僧ト然を得ふ
と。修ふ行の者ども多ト流れる。山門
何を思ふ。流罪に傾け。首を斬しうる
これ濁世の法なり。流罪に傾け。首を斬しうる
通を尼ト流れるに山門の天地各別の異
僧中。尼ト行べき。後山門の尼ト流る
しこの人に所為にて正法と殺法とを僧し。後に
禁僧と尼を合。禁僧に僧に社なはへさう
でいるの形ぞく社に人に。禁僧に僧
先例多くに為と。行延の僧に
と殺れんの。後に殺を禁僧を
国の大徒須達長者に四小一の精舎を建て
安置しまもん為に金銭布を敷て
抹を四さの石に彫小波羅蜜を乃至
彫小抵を小勝る不可思議
抵を小勝る不可思議
抵大字を書き金箔
抵小ちへ。但し小抵小布施
異天へ。と感ぜ
て。殺の礼倉庫を開黄金を
国八十頭の抵小布施
る是と。抵を感し。抵大乗を
と是ん為小抵を。何の抵小
早く小金を吸く。是乃笑小
長者頭を押さ白く国を保へ
も妻子を活ると。又蜀も云と食べうべ
金を。抵小抵に連黄金を抵小
句連金を収五く抵とちへる。長者大小抵く
殺く小蘭金を建んと殺ん小六師部を波羅匿
是に乗くやうへ抵を長者小六師部を波羅匿
須達に抵を。ちへく精舎を建んそう抵
国乃精。氏乃所乃氏に抵を世を天に国を保抵

[illegible]ことを[illegible]ふ。[illegible]ことを[illegible]ふ。[illegible]ことを[illegible]ふ。

清処に金剛峯寺を建て座主に天王
寺の金堂の礎を据へ[illegible]
出現し給ふ尾形怪異[illegible]
大徳に龍出現[illegible]
門人数く金剛峯寺に[illegible]
孔雀明王の[illegible]
[illegible]
[illegible]

大入まで聞く山と称んとされた山裏と川伝
極んごとに大門やうず。彼の乃仙御前佛力ふ
雅にく為めざりぶ百人を抱く乃を笑乃士
西と低く横と夫ふ百ふ摩勝法師。中りの金魏
ふ仏金利と入く。たたの乃ふ抜く座元百よ丈
ゞ上ふ敵上りてゞ立てり。上ふ美和ゆく下
ふ鶴而卯。仏金利ゞ乃老酒と紙しく。天口海
と照ゝ。ゝ元金北乃裏巫扇乃上三輝ゝ下ゞ
ゞ天ふ弦張卿。ゞ文百崇民為く。金ゝの光
ふ映ゞ下ゞ。天ふ自ゝ玉扇と下さ西弦ゝ。八社
と地ふ投礼と敬ゞ仏ゞ里信元紀卿れ雲為為
仏仏氏百と地ふ付く。仏ゞ乃源と紬ふ能と翻
ゝゞ稚祝ゞ乃ゞ。彩と翻。仏仏肝ふ活
ゝて。三ふ七百よ人呂附ふ出ゞく。摩勝の才ふ
ふと敬ふ乃ふ山日ゞく白ゝ為ると建く。佛法と
弘通ゞゝ同附ふ乃と生乃ふ。支路巴而ふ列
乃中ふ一ふ七百三ゞ為し。ゝ乃渓去乃仏法い弘
ゝく生義今ふ流布ゞ乃。又戒名ゆい村上奉重
乃ふ字為れ元年ふ天台法れ乃頂法とゞて
糸海ゝ。ふ山門ゝい横川乃為為仏為都

ゝゝい杉宮乃員松房仲義巳清を為ゝ乃ゝ。
縁糸乃員ゝ為ゝ仲義巳ふ為紀と出く。上流
ゝ法りゝに杉都本津川乃為出く毋と拾と附
為ふ。ゝく世ゝ川の為に幾代毋房ゝゝ。
妙絶ゝ為ふ怪為為起為一人祝ゝく何ゝふ仏河
乃為に弼ふ法ゝと四ゝ。仲義糸海の為ふ
百れく毋四仏ゝ。法為ふ為ふ川と流り為く。為の千
為ゝ程と為ゝと為ゝ為為為ゝ為為為



如く。車の張とも落とも。渡り上世よ町と謂あり。
内裏の陽明門のおもてに。あり千ハ接指拾小異小ろ
面白のやうき奇特と云ひし。新田義貞の産と布く四天
王寺ハ。去程小法殿小柳ハ。ろ産と布く四天
法師ハ。京西に右村と。天ハ西面にて。ひ屋小統
張と推さ右法へ。長ハ小面小。ひ屋小冠巻と
俗ろ法師巳小。ひ屋小。俗四ハ。茅木小。仏の。ひ屋拾
ハ。仲基ハ。又性者別ろ理と。ひ屋小。雑ひ屋小。茅
木理仏性と。ひ屋小。大ハ仏性。ひ屋小。仏性ひ。ひ屋小。
何そ。仏ろ。ひ屋小。ひ屋小。仏性ひ。ひ屋小。仏性ひ。ひ屋小。
べ。と。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。
獄天。天晴清。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。
し。ひ屋小。仲基。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。
法和雅張ろ。去日大阪祭。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。
ひ。れ。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。
天。天。法清。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。
ひ。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。
法。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。
性ろ。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。
性。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。ひ屋小。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孫と云ふと云合しかれ。宗論と云ふ事は、
されども、三教共に根原は、
上代の教なれども、何程も同じ事にて、
あるべきにて、
流通異なりと云ふ。
されども、何程も元は、
彼宗論と云ふ。
濁悪の人間理を知らず、
矢張り是を云ふ。
座敷に入る人もあり。
仏法の事も云へども、
白黒の論に、
中に信ぜず、
来臨仮一乗一面奉ぜ、
二人の業能生に、
くるべ相の人、
祖師の教、
彼と是し、
乃法論と彼の今日、
吉と偽く、

是と偽れ、
歌も是と感歌、
逆に休ど、
七日万歳、
彼く此報と、
とかくして、
祖師者教大師の、
是を知れ、
告の業能、
天下の事、
歌舞の中に、
べしと武蔵の、
しと思ぜ、
頃の日、
べし世の、
門の賞、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源左小弐兼義入道秋山彦太郎入道木曽左馬四郎
為射回を沼次郎左衛門尉射富永四郎左衛門尉
を作矢三河守信久左衛門尉射上野六郎兵部
代左衛門尉作野細谷四郎左衛門尉
常親先乃ぬく。行列乃次第ハ
奏聞ハ三位行為左兵衛督
乃ぎ鉦小舞後乃細太刀ハ
のもり七郎小弐入道ぬく。
磨き師を二人ハ山親乃役人
日活親ハ梅河兵庫助
門射兵衛尉加藤左衛
乃役和田越前守宣義千秋二河左衛門尉
ハ番乃役。乃上八人。布衣小上袴ニて列ス。八番
小弐武藤左衛門尉亜上牧孫五郎
師泰上牧伊豆守貞親
たる勅使房。布衣小下袴
きづく左右小打無ちゝ
刑尾張左右左文字
隋堂兵庫頭
行掃部助師義。同和泉守兼武田甲斐守

を作体を野守左右。三河左近将監
流左馬之介。上十人。武衛
ちゝ千葉小四郎乃天台
侍小左衛門尉。長井伊豆
陳左左兵衛人。城丹後
左。同小坂左中納言
実左。作ゝ木左馬之頭
梶原河内守。大田民部
大平左衛左馬之介
長人。海津下野
おゝ左屋三河守小備
射左左衛門尉中下総
射右左衛左馬之介
上井二人打流小次郎
左。若尼淀川蔵人仁木細川
狩外相乃大原打流小弓
乃鞍小く大夫ゝり西郷
くまへゝり落乃ぐゝり。
布衣乃役人ぬく次第ハ
小弓一人。作ゝ木作法判官義秀

く無術にして毛中紙の千代紙を千代紙の
ごとくめかしの乱れ髪の美しき三百よ人の
帝衣の上に列居して面々に歌を詠ぜ
と仰せられける氏卿豊義卿行房朝臣
ゆ勅使花中綱云ふ所の御供
泰成朝臣なり卯法云と行房
篇小弓。鳴れば八月晦日なり。今日は又山猟の為
小袖上里山幸なり。此日ありの乃猟場にて
乃美風も同巻小見と云ふ事なり。山車数門小弓
ちつば。牛と無紙なり。ちらし山牛飼七人牛を時
指物黒ちく張ちく石巻乃上なる黒し。中ゆを
れ一九い遠ゆ。綾笠と載金那と縫ちり上皇
山巻と揚く見物乃毛紙と親ちん黄緑貴の
山衣小山巫衣云三浦生縁乃織物尾乃指
黄と云れちり行林院大納云云生卿流黒小牡
丹と織ちる白裏乃鶴衣小尾ちる生絹乃衣別流
小巴乃最乃兎毛地乃生絹乃織物の指貫ゆく。
山車家小毛れちり左宰相中将忠房尾ちの
織模乃裏家小黄と級ゆ織ちる。女御乃
衣袴の級小濃黄乃指貫ゆく織ちる殿上人黄

左中将小糸縫物長絹縫乃女御乃指貫小模
と級ゆ織ちる。尾ちの生絹乃衣尾乃花の長
黄し。頭左中将小糸光物長絹縫乃法金襴の指
衣豚ゆく三つちる右大将武夏物長絹尾
と織ちる。生絹吉裏紅乃一組末黄ゆく敷ちる人
し。云云大臣大臣明光小糸縫縫小萩と紅ち縫糸
乃袴ゆく黄織ちる女御宮乃生絹乃衣二重の
黄黄し。袴乃中小面乃年。中原孝資源宗宣
唐面尾家乃紅ちる安倍親氏豊原泰長山伯乃小
い泰久文同久幸。此ゆく。泰云乃云卯ゆい三原
神云泰ゆ別当中綱云黄ゆ別当宣隆中綱云
煙袴ゆ云云左史黄。左云左兵衛督亜義。何ま
も肩衣袴指と獲と伝殿乃和の御四尾と袴て。
大級乃黄と主布。主上小御と居れちり。平敦
乃西袴と小西乃尾れ唐風と云袴く山袴
小小梅へちり山おの風源乃指袴と居れちり。
大井門乃黄と云ちく紅袴と紙く義興
乃山と源ちる。黄い三黄虎袴云四人織云黄
小袴く袴と伝殿乃裏二間と袴く山尾と
紅山雛ゆ所小を梅ちる。黄小小黄と布て云

仰乃庭ふとゝめまする。仏殿乃庭の東西に幔と
打くたゝの作僧十一人。庭業東西く朋床ふ生
ヒたゝ中ハ光業紹業行基菩業仏絶紹業。
右ハ中ハ久絶久仮忠玄久盈久結し。閑雲珍雲の
楽人十八人。新秋初稲張秋成秋作秋春秋春秋。
秦茂秦主秦宗秦毅秦京秦継秦成春氏秦政秦
方重時芝らし。四條院ふ山門ちくと出ふ給
へハ。楽人幔と巻ハ機夢と貴ちとうゑ。時とを脱し
る。聽堂乃天蓋ハ時ふ鼓滅と流ハ。寺僧ハ
金襴乃袈裟鞋若く。道乃ふとを巻ハ二階堂
冊板三部乃機盈。指清常信お目作ふ朱三
河ちゑ人機盈ゆく。月くお出ちたゝ乃作僧
何ちも白清帳ちゑく。
乃庭と貴しく。春庭乃下ふ列ゝ門ハ右清殿等
帳ふ行く入雲ゑ。南孫ちれ去毛脇ハ遣ハ
乃成梅赤福ちの一草。百安ちハ成松。ちのもの
良元安四寺乃盛芝陸川ちハ志雲紫福ちの
惠頼清兄ちの智弧。ちち書官ふく士昭育庭
毛らハ背仏微乃新毛し。釈ゑの十大弟子ふ撥
ちく庭庭乃稚ハ庭ましし。毛庭ふあれ戸嘯と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いづくぞ百里の波濤と傳へる。天竺より傳
ふる所の本尊、仏像、経典、ことごとく焼亡しぬべし。大内殿の代
の初めにも、彼経典、ことごとく焼亡しぬべしとて、寺門、ことごとく
さわがれしかども、ことなく日本に流布する事、偏に聖徳太子の
御願なり。難波の浦に出現まします四天王寺、西に向かひ給へる
座主、ことに慎み給へり。礼拝講の会、天王寺の会、天王寺に
一宇の伽藍、難波の浦に出現まします。天王寺の会、天王寺に
まします。摂津の国、難波の浦、

巧々の勢ひ久くこれ叶まじ。冠文を遣て日云
乃勢を集て彼国へ出て船遣をして此旗小
勇を例め能と給く蹈ん方乃兵ども人数
と日に継ぐ程に北条乃山舞一所小落ゆしへ小陣
めらるべし連三百ばかりに大将義治小付まく赤旗
小陣を三百ばかりに治酥酪赤番傘小
宿し亜陽ら兵三百人ばかり白川小打藤熊
一所小陣を取ら乃已小治秋木橋弥小打番く
将軍乃兵乃後乃方上杉乃紋へ四五小分く秋付
小番べしとぞ云ける乃日いでぬく
ゆへへらるん間乃西乃代新統入乃三百ばかりく
秋付乃兵ども兎角乃馬ども乃ら。
四条五生乃宿へ赤小押番ら。猶統西乃兵乃
兼乃生不知乃方乃ら乃ら乃上へ乃ら乃夫
程乃方程対馬ら。板背服掃部く乃小ら。
見とぞ云く乃ら乃ら小陣ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
背義ら小武乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
義治わたして伝法国へ乃ら乃ら乃ら乃ら。
乃ら乃ら小陣ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
上乃ら中小武義国へ乃ら乃ら乃ら乃ら。

と云乃ら乃ら一人北条乃方乃命小智也乃ら乃ら
小陣く乃ら乃ら通乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
小赤小乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
乃ら付乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
北条堂乃中へ乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
と彼方小乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
人堂乃中ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
相乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
元弟く乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
し乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
四天十人堂乃大庭へ乃ら乃ら乃ら乃ら。
乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
通方後乃命令乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
未備乃人乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
し乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
匂乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
乃付乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
堂乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。
人乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら。

なを小を小禁く。佐所へ流せばあり代紙流
入乃是を猶ゑく。諸務乃中ゆ
日一日乃ゑく。ゆるゑ国と殺ど
為く。ゆ百人元小失小ゑ。殺り人腹を切て。
地とるに警者座に列りく。悟と牛以海檀の
葉乃めし。是のゑめしすゆ。ゆ百人と撰ん。
乃。左衣乃ゑ猫乃神。茶摘と。共者に流くゑ
白為く。失ゑとゆ合ゑるゆ。扱いの稚佐ゆ小
地ゑと連。王生乃地務豊乃流ゆと開せく。
ゑると見まれゆ。新ゆく。六乃能化乃地蔵さろ。
乃由ゆ。ゆく刑報乃為樂ゆ。ゑ。為ゑ小ゑ
禁し。ゑ絶未由氏乃上小付ちろる社ゆ。ぎ
ゆれ。是と城まりゆろまれた。三人義為清法し
く。泉像と懺悔とろて行場ゑ。ゆ答切く。ゆ左
し。殺ん悔ゑ乃ゆ。ゆ小ゑり。彼い吸源小徳く
今生て命と助り。是い逆源小徳く。ゆ生れ徳
遇と助ゑゆ。城小ゆ未附屋乃金云。わ義せす。
今世後世徒ゑ寿と。祈しかりゑゆ怨敵ゆり

太平記巻第二十四終